

学校教育目標	心身ともに健康で、自ら学び、自ら考え、判断し、行動できる子どもを育成する。
目指す学校像	やる気を育む日進北小・学びを楽しむ日進北小
重点目標	1 「日北きやつふ（決める・やってみる・学びをつくる・振り返る）」を生かした学習活動の推進 2 全ての児童と教員のWell-Beingを保障する教育支援体制および教育相談体制の充実 3 コミュニティ・スクールの成長および発展、深化に向けた理念と方策の共有と行動 4 教師と児童が主体的に作り上げていく安全・安心な学習環境整備 5 一人ひとりが力を発揮できる「やる気を育む・学びを楽しむ」学校をつくる教職員集団の育成

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

心の子どもの発達やサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学 校 自 己 評 価					学校運営協議会による評価		
年 度 目 標					年 度 評 価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 ○国語・算数ともに全国や県の平均と同水準であるが、算数で市の平均値を大きく下回っている。 【国語】: 「書くこと」の領域で正答率が高いが、「知識・技能」の正答率が低い。 【算数】: 特に「数と計算」領域の正答率が低い。 【課題】 ○国語「知識・理解」「読むこと」で無答率が高い。算数は全般において無答率が高い。 ○基礎・基本の確実な定着は継続して必要。特に算数においては、中学年から系統的に身に付けていく必要がある。また、個人差も大きく、個に応じた支援も充実させていく必要がある。	学ぶ楽しさを実感できるような授業の開発および実践	①「探究的な学び」および「日北きやつふ」の推進により、個々の児童が自身の学習課題を設定して、意欲的に学習に取り組む態度の育成と習慣化を図る。 ②「探究的な学び」の実践の中で、教員が児童の学びに伴走しながら、児童の課題解決能力を育成する。	①「自分の課題をもって、学習に取り組んだ」と回答する児童の割合が昨年度(91%)以上となったか。「探究的な学び」「日北きやつふ」について実践したと回答する教員の割合が、昨年度(86%)以上になったか。 ②「児童の学びへの伴走」について、教員の肯定的回答が90%以上か。			
		自己肯定感を支える学力の確実な定着	①ドリル学習や、自主学習の機会を充実させ、個に応じた支援をしながら、基礎・基本の確実な定着を図る。 ②1人1台端末を積極的に活用し、児童の学習への意欲を高めながら、個々の目標をもって学習する習慣をつける。	①全国学習状況調査における国語・算数の結果で、昨年度の自校の結果(正答率 国68%・算57%)を上回ったか。 ②「端末を使った学習」について、使った方が意欲をもって学習できた、と回答する児童が80%以上か。			
2	【現状】 ○「学校に行くのが楽しい」の肯定的回答が、市の平均を下回っている学年がある。(中学年) ○家庭の多様な価値観により、児童へもより細かく個別な対応が必要なケースが増えている。 【課題】 ○不登校や登校しぶり、母子分離不安等の児童への対応を継続して進めていく必要がある。 ○教育相談の希望申込件数が急増しており、十分な対応(相談)ができないケースがある。	教室に入れない児童のための「Sola る一む」の整備・充実	①児童の発達に有効な Sola る一むになるよう継続して整備する。また学習ボランティアの引き続き募集を続け、いつでも活用できる場にする。 ②不登校児童や保護者への周知を徹底。	①年間を通して、児童が自分のペースで学習するのに有効な場所として、整備することができたか。 ②学校だよりや学校ウェブページを活用して、周知をすることができたか。			
		組織的に迅速かつ丁寧な対応で進める教育相談体制の充実	①必要に応じ部会を招集したりケース会議を実施したりして、担当が一人で抱え込まずに、組織的に対応する。 ②SCやSSWとの連携を積極的に図り、専門的な意見を関係者で共有する。	①学年や学級担任からの要請に応じて、ケース会議等を適切に実施できたか。 ②不登校児童への対応項目で、保護者・職員の肯定的評価が昨年度(保護者81%、職員100%)を維持できたか。			
3	【現状】 ○学校運営協議会では発足から現在まで充実した熟議を行うことができ、めざす児童像に反映するなど学校運営にも生かすことができている。 ○学校運営協議会への児童の参加も定着してきている。 ○SSNとの連携も有意義に行うことができ、地域の諸団体の協力体制も構築できている。 【課題】 ○家庭や児童への認知度を上げていきたい。周知に向けた努力は継続して必要と考える。	地域とともにある学校として連携・協働する事業の策定と行動	①地域の方に授業に参加していただき、地域の方々の思いや努力を児童と共有できるようにする。 ②CS・SSNと連携した催し「地域・子どもフェス」を継続させる。内容を更新し、参加人数の増加を図る。	①地域の方に来校いただいたり、訪問したりして、授業に参加する機会を昨年度(3回)以上設定できたか。 ②「地域・子どもフェス」の内容を参加者体験型中心として充実させ、継続して実施することができたか。			
		コミュニティ・スクールへの児童の参加、地域や保護者への周知	①代表委員会の児童が、学校運営協議会で取組を発表する場を設け、地域の代表者との交流を図る。 ②学校ウェブページや学校だよりを通して、活動を随時周知していく。	①児童が学校運営委員会に参加する場を設け、交流を図ることができたか。 ②学校評価においてコミュニティ・スクールの認知している割合が昨年度(86%)を上回ったか。			
4	【現状】 ○開校76年目となり、学校全体として施設の老朽化が目立つ。昨年度、空調およびプール設備の故障が重なり、早急な対応が必要である。 ○児童が中心となつての安全への取組が定着してきた。引き続き怪我の防止に努めていく。 【課題】 ○学校単位で修繕できる箇所については引き続き迅速に対応していく。 ○児童中心の安全啓発活動は今後も継続していく。教職員も一体となった活動にしたい。	全ての児童が充実した学習を進めるための安心安全な環境の整備	①施設の異常箇所に関しては、事故を未然に防止するため、発見次第速やかに教育委員会と連携を図る。 ②毎月の校内安全点検を確実に実施し、要修繕箇所迅速に対応する。	①正しい優先順位の下に修繕を進めたり、大規模修繕について委員会に依頼したりすることができたか。 ②毎月1回以上敷地内を巡回し、危険箇所の有無を確認、対応できたか。			
		教師と児童がともに取り組む安全教育の推進	①児童の安全委員会や保健委員会の取組について、全校に周知させることで共有し、事故や怪我の防止に努める。 ②teams等を活用し、児童の事故や怪我の状況について、職員間で情報共有し、安全指導に生かせるようにする。	①委員会活動として学校安全に対する取り組みを継続し、児童自身の危機意識を高めることができたか。 ②「学校施設の安全管理」に関する項目で、保護者からの肯定的評価が昨年度(88%)を上回ったか。			
5	【現状】 ○ICTを積極的に活用した学習は、どの学年でも定着し、スキルも向上してきている。 ○キャリア段階を超えた教職員同士の協力体制が構築できている。互いに支え合える働きやすい職場環境づくりを継続していきたい。 【課題】 ○教職員の人数に限られており、負担が偏ってしまいがちなことが懸念点である。心身の健康管理には、細心の注意を払って気にしていく。	教職員個々の授業力向上および学校全体の指導力向上を図る研修の推進	①授業をもってしている全ての教員が、少なくとも年間2回以上授業を公開し、互いに見合ったり話し合ったりしながら授業力を向上させる。 ②学校だより等で取組を周知する。	①全ての教員が授業公開を年間2回以上実践できたか。 ②「探究的な学びの実践」に関する項目で保護者からの肯定的回答が昨年度(82%)以上になったか。			
		心身ともに健康で、自身の力を発揮できる教職員の健康管理	①業務改善に関して職員研修を実施し、教職員の時間外在時間削減する。 ②ワークライフバランスデーを月1回以上設定し、確実に実施することで、職員の健康増進を図る。	①時間外勤務削減への意識をもって業務を遂行する職員が昨年度(80%)以上だったか。 ②教職員全体の業務満足度が、昨年度(72%)以上となったか。			

学校運営協議会による評価  
 実施日令和9年2月12日  
 学校運営協議会からの意見・要望・評価等